

東山道地誌

出羽上

拾三

和書門			
二九二〇〇	一四	一四	一四
號	函	架	冊

内閣文庫			
和書	二九二〇〇	一四	一四
類	號	冊	架

内閣文庫		
番號	和	29200
冊數	14 (13)	
函號	174	164



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM, Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

東山道八国
以天波

各洲輿地圖說内

出羽國

上管十二

六九三〇番

明治十五年購求



置賜

最上

山本

檜原

或能

田川

秋田

平鹿

出羽

海

河邊

利

御蔭

村山

或能佐

或豊嶋

又ハ秋田

延喜式倭名抄並為十一郡由利郡檜原郡ナシ

風土記曰出羽トハ就鳥ノ羽ヲ出シ貢獻スルヲ以テ

出羽トス云々

国造本紀曰出羽国元明天皇和銅五壬子歲割陸

奥越後二国始置出羽国也ト云

續日本紀曰和銅五割陸奥国最上置賜二郡隸

出羽国云

延喜式頭書曰仁和二年十一月十日分最上置村山云

續日本紀曰天平寶字元年出羽国小勝出羽雄勝

同三年始置出羽国雄勝平鹿二郡云從考へシ

或云當国羽黑地名アリ下野二黑羽羽アリ往古ノ

黒齒十九ニヤト云

和名抄曰以天波テ国府在平鹿郡主計式曰行程

上甲七日下午二十四日海路五十二日民部式曰為遠國

一云暖氣早而多ク厚大上上国也

天文北極出地二十九度

方境東西

界限當國北海濱一西面海辺東北南三方陸奥

境以西南隅一越後續ケリ

氣候寒國人氣實儀一ノ頼母一ノ者多一ノ皆

迎一ノ了一ノ思一ノ心一也

上檜内
田沢
横沢
金沢
仙北ト云

此間舟渡シテ十処
皆戸島川流ニ
戸嶋
三ツシマ川ヲタシ

秋田佐竹世乃名
久保田
道川
長ハ六
百三端
戸島川

野代大渡
舟代
舟川
大保
戸島川

上檜内
田沢
横沢
金沢
仙北ト云

此間舟渡シテ十処
皆戸島川流ニ
戸嶋
三ツシマ川ヲタシ

秋田佐竹世乃名
久保田
道川
長ハ六
百三端
戸島川

野代大渡
舟代
舟川
大保
戸島川

野代大渡
舟代
舟川
大保
戸島川

大館

三ノ山

四ノ山

欽

美濃

碓氷

長

大

石川

碓

碓

碓

石館 国境迄

出羽奥州境
大同被下云
是より北洋陸願

陸奥国

置賜郡

○米澤城

城主上杉氏十五万石

當棟天正十八蒲生飛騨守氏卿慶長五万石上杉中納言

景勝以後代々當主に至る

花江候室至る強く又夏月八江戸の九十月比の如

深淵山麓谷の比多し城下町民家凡そ千餘家と云

自江戸里程七十五里ヨリ奥州福島迄十丁若松迄十七丁

○同新田一万石 上杉氏 所領

○大館 弟以城下迄と流る家上川の上迄

○松川 源東嶺に發し九丁最上に入

○筑波村分りて下 赤泉村と温泉河

○不老水或先清水と云川植村河、飯沼河

○中山村園門河、明りて掛石と云大石河、言二三丈

園廻二字赤又窟河

○川合村、去山南界之

○亀岡文殊堂 米沢赤水之在松高山文殊院古辰百石 鹿島村

四年三文殊共一辨靈験号

○福泉寺 祥如寺親音 米沢

○保壽院 日 日親音 日

○尖山 米沢赤水あり

○朝日山 尖山より方

○安久利村八幡宮 言相合奥州刈田郡湯の原之里赤水

源義家公親清 昔時ハ神依之子也石附して大社之令と云の

少綱と云

○高畑 織田家依知二方石 明和

○浮島 嶽分七里許美法沢と云地也 或書最上郡

大沼權現祠 祭神 阿奈根魂神 別名大沼山火行院 尖

人皇四代天武帝白鳳中没行者園基と云方依百五石

苑大沼あり南北十六七丈許東西六七丈許池中水澄

世後を御嶋と名ふ日本玉中坊中風位を浮き上りて
其の湯と名一塊の事には松栢栴檀山吹の類生茂りて浮り起
りて糸と名一と名上人の言伝されも奇と名もさるる事あり
里人言、最上部村名の種と名りて遊べ或は浮物なり
寛文中と見入らるる事あり古の事なりと云ふ事あり

○有馬温泉 有馬岳の下方村名の事なり

○板谷城 米沢の奥州福徳と云う江戸往東の節

米沢より大沢行板谷原行 此板谷城と云う鬼殺し産地なり
有云城一の城なり 是の奥州の事なり 度坂行洋伝事
一里往還福徳驛と云

○檜原城 米沢の會津表松正江戸迄

米沢より園町行 是の園町は
大塩より 榎木より 是の榎木は
大塩より

大塩より熊倉より 是の熊倉は
大塩より 若松 是の若松は
大塩より

右二道より 是の右二道は
大塩より 岩倉 是の岩倉は
大塩より 堀 是の堀は
大塩より

二里道より 是の二里道は
大塩より 堀 是の堀は
大塩より

○城後路 米沢より上小松行 此上小松は
十間余橋より 白川 此白川は
北川より

北石より

白子河行 此白子河は
大塩より 小園町 此小園町は
大塩より

小園町は上野町より
横川より 玉河 此玉河は
大塩より

玉河は東流れ末は海に入
北川は北流れ末は海に入 大和 此大和は
大塩より

○田川郡

○氣岡

出石の南限、破後二界不

念種^{子不}關^子も青嶋海上^子

實ハ念珠買与由云

氣岡二里山釜谷村海邊衣簾^子あり

言天竺人 在如九^子宗

○根矢浦

矢尾明神 中祠あり

此海中、根矢^子、鮮^子、之^子、大石^子、多^子、海^子、而^子、同^子、奈

或云石^子、多^子、十八^子、尖^子、暮^子、坪^子、村^子、海^子、上^子、海^子、門^子、也^子、云^子、一^子、程^子、漢^子、石^子、程^子、而

今^子、所^子、奇^子、也^子、云^子、

○尾園^子、破^子、後^子、出^子、石^子、院

店門^子、七^子、里^子、是^子、不^子、庄^子、門^子、也^子、

破^子、後^子、也^子、急^子、介^子、了^子、十^子、丁^子、尾^子、園^子、木^子、殿^子、了^子、也^子、

○鴨

氣岡^子、不^子、渡^子、通^子、了^子、少^子、入^子、江^子、之^子、造^子、造^子、系^子、の^子、地^子、也^子、

鴨^子、氣^子、岡^子、不^子、渡^子、通^子、了^子、

鴨^子、氣^子、岡^子、不^子、渡^子、通^子、了^子、

○弁天嶋 小島嵐園ノ沖筋京まで

○袖浦 宮上川流に 大山濱中ノ坂田ノ以向ノ

嵐園 加茂川と湯ノ場候一筋ノ舟と云々也

○湯温海 木股ノ下ノ羊堀ノ下ニ此ノ娼家あり

湯温ノ下ニ此ノ娼家あり 湯温村 田川村湯温村

○大浦古株地 大山ノ下ノ系浦株代 松本信濃居

○高嶺古株地 大山比叟義氏居之此上義光ノ所居

○渡 網ノ橋ノ下ノ大山村東南ノ下ニ 後アツラニテ大ツラニテアツラニ

○智尾明神祠 大山村ノ下ニ 高玉九座ノ大惣志神社ニ

石章表流ニ度長十六大比下流為耐寧寺此ノ系東邊也
新寺於彼北庄作之ト云々

○大山村 大浦ノ下ニ 田圃ノ下ニ 寺ニ在リ

大浦全義と長谷堂候ト云々

○新波山 古株地 大山村ノ下ニ 寺ニ在リ

地アリ此宮ツラト云々

此邊海濱南ノ嵐ノ下ニ 田圃ノ下ニ 寺ニ在リ

海ノ表に刻りたるノ一 大石寺ニ在リ 此處ノ福浦ニ 寺ニ在リ

ノ下ニ 海ノ下ニ 吹浪ノ風ニ付 寺ニ在リ 此邊ノ福浦ニ 寺ニ在リ

寺ノ下ニ 海ノ下ニ 吹浪ノ風ニ付 寺ニ在リ 此邊ノ福浦ニ 寺ニ在リ

○正位遠賀神社 或内田川郡 崇神 福倉魂系 掃引福倉村

○由豆佐賣神社 温海嶽越野社 温海村 司官 稻谷備中守

温海村 司官 稻谷備中守

○庄内鶴岳

味下町跡 蟹昌の地 味ハ平城

當城之河井候十四日石川家元八ヶ洞井忠掛以後
代々領之 至江戸幕府迄其の而幕の日後其の而北より
松山より湯殿へ八ヶ洞田へ六ヶ洞上古沢へ五ヶ洞宮田
當城始不詳一説義家公武衛源氏時ノ跡也其云
元大梵字大山城又大室寺城也或宮上茂光居城ノ
時より窪田と改む云

又武藤出羽守義氏領入田河飽海平鹿三郡主と云
後幕府入 天守死入正徳寺得持墓河

右東庄内主人得入庄内之郡攝田田川遊佐形と云来
寛永以来改入田川飽海每郡定より遊佐郷に飽海
形より攝引々田川形に改むされに飽海田川三郡と云
庄内と云は是大泉莊の内と云は畠福と云は梵高の山

上の方海之境門下が海へ各々似たりと云て二郡と云ては
右より湯倉山の内と云は比路山と云て是を以て山内と云
又云武家氏の上校に上洞井と云ると大泉庄内大梵字城
庄に飽海田川五郡と云

按、庄内地畠山向平向地皆水田と云と山澤を山と云る
山字は以て事或は三里或は里皆澤府に田地多し宮上川
に中央と云る枝川之様を以てて米穀と運送と云るに
人の功費より湖中澤に引く水圃と云ものは是之を以て
産と云る。此の量と云る

又之庄内跡と仙を合致しと云
庄内地畠を以て海へ取て埋む吹雪と云る云々因宮垣と云
宮上寺燈子と云る云々竹成は本庄山守の云々
身竹様と云る又仙臺造中へを早と云る云々

往來は河より入る上川も冬月ハ水水なる程澄み
九月降下止も毎年七月七日不_レ過中_レと出_レる_レ也
花花も水水も火火と_レ並_レと_レ出_レる_レ也

○ヤドリト云ハ_レ堀不_レヨリ十_レ年_レ中_レ西南_レ深_レ山_レ之_レ跡_レ又_レ八_レ村_レアリ_レ也
此_レを_レ川_レリ_レテ_レ下_レリ_レ川_レ橋_レアリ_レ十八_レ百_レ二_レ本_レ丸_レ也_レ 川上地就多院
ハシゲヒナシ。

○大梵字川 大寶寺川

水原湯屋山_レ平_レ而_レ流_レれ_レ諸_レ所_レの_レ流_レれ_レ者_レ一_レヶ_レ處_レ者_レ其_レハ
大_レ川_レと_レ大_レ梵_レ字_レ城_レ根_レと_レ流_レれ_レ故_レ城_レと_レも_レ其_レと_レ同_レ也

○高川 新後一 落是所 出_レる_レ也
水原湯屋_レの_レ出_レる_レ上_レ川_レ入

○金峰山 赤月_レと_レ半_レ斗_レと_レ有_レる_レ

此_レ山_レの_レ妙_レ皆_レ金_レと_レ一_レ物_レ一_レ之_レを_レ其_レ地_レと_レも_レ其_レれ_レ也

○光明寺 一向_レ東 霍_レ岳 養源寺 祥_レ十_レ五_レ年_レ 日_レ示
○常念寺 法_レ云 系_レ延_レ院 出_レる_レ也

○田河明神祠 一宮_レ村 金_レ神_レ大_レ己_レ貴_レ命 別_レ高_レ神_レ宮_レ寺_レ也

○田河太郎神社 霍_レ岳_レの_レ下_レリ_レ日_レ取_レ田_レ川_レ村

○湯村 湯_レ道_レ而_レ霍_レ岳_レの_レ下_レリ_レ也_レ 町_レ邊_レ湯_レ家_レ之_レ也_レ 湯_レ道_レと_レ云_レ也_レ
温泉_レ六_レヶ_レ處_レ也_レ

○鬼作 湯_レ村_レの_レ下_レリ_レ也_レ 炭_レ地_レ爲_レ堂_レと_レ有_レる_レ也_レ 鬼_レ返_レて_レ地_レ爲_レと_レ有_レる_レ也_レ

○霍園光安寺 厄_レ寺_レ也_レ 武_レ家_レ家_レ建_レ立

○霍岳八幡宮 田河村 矢澤山 云々 矢澤所
花源義家公武衛家御と云 踐年一 歟云

羽黒山の酒田より七里東南と云 高山と月山湯殿と云 山
と云 是直江山城米沢と云 月山と云 人教と通也 云々 云々
弟沢川の系と云 月山湯殿月山は古道河と云 我
川山南と云 字は細道河と云 志津と云 古く
月山と云 字は月山と云 古く 古く 古く 古く
志津と云 山道の月山と云 里と云 湯殿月山を磨
古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く

古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く
古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く
古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く

○羽黒山 飽海郡とて今田川郡屬也
羽黒山と申略し羽黒山とて今田川郡屬也
寂上領也 霍岳と稱述之也

○羽黒山神社 山上五峰石階罕所登下本社階
神奈福倉魂神 社於千五百石東麓山屬 別名 寂光寺
八大寺字以宝珠院坊舍字院 山伏寺之坊
草創推古天皇勅宣開闢能除大師
延喜式田川郡之坐内伊成波神社と云

○湯殿山神社

神奈大山總命一説彦火火出見尊 別名湯殿山日月寺

一名戀山 此山巔雪積り甚多氷柱有り之を月山奥院云

○月山神社 四月八日八月三日山開

神奈大物忌神一月弓尊 別名暮禮山月山寺

月シラの山シラはねれはつとく好むる里にまゐる人ぞ志願 如矣

山高く雲霧深く夏月雪有り六月より梅雪也

月山湯殿の向五丁所今俗之と縣城九里と云月山

寺多し相傳湯殿山の御一山山高廿四町五尺六間餘

云是所見の法と云て之を云と云

羽黒山 録起曰昔能隆王踐此山時為導之故曰羽黒山
月山一名牛首且年有大祭湯殿靈場時有紫雲影亮云
舊記曰崇峻帝第三皇子幼名參佛理歸佛門師聖德太子
法名弘海勇猛有二凌雲志依天童之語往楳峯羽山修捨身
行信設若經常誦法除一切苦之文故人呼曰祿降仙飛揚
月山及湯殿山其間五十四里今俗謂之懸越九里一
道法羽黒山自稱八十九可又月山堂北事四山自月山至
湯殿之本道有一凡九里半 在內ヨリ月山ノ内
本社再興應安二大室寺武藤讚岐守藤原政武
又渡長十二家上出羽守義晃所造也
又寛文中中殿有公御朱印社殿千五百石余當山先貫主
天欠宿法平頂敷之

湯殿一名意の山又月山靈會津境真山之く又此
海村の海を越ると意の山に之と云ふは道と云ふを以て

湯殿

湯殿

湯殿

湯殿

湯殿

意の山 意の山に湯殿の寺あり入神ありむす神子 取伴
まろね松の葉ははらるるを意の山の名成りて人家敷
意の山に寺ありむす神子 取伴
人まろね松の葉ははらるるを意の山の名成りて人家敷
意の山に寺ありむす神子 取伴
人まろね松の葉ははらるるを意の山の名成りて人家敷
意の山に寺ありむす神子 取伴
人まろね松の葉ははらるるを意の山の名成りて人家敷

湯殿 湯殿の山に湯殿の寺あり入神ありむす神子 取伴
湯殿 湯殿の山に湯殿の寺あり入神ありむす神子 取伴
湯殿 湯殿の山に湯殿の寺あり入神ありむす神子 取伴
湯殿 湯殿の山に湯殿の寺あり入神ありむす神子 取伴
湯殿 湯殿の山に湯殿の寺あり入神ありむす神子 取伴
湯殿 湯殿の山に湯殿の寺あり入神ありむす神子 取伴
湯殿 湯殿の山に湯殿の寺あり入神ありむす神子 取伴
湯殿 湯殿の山に湯殿の寺あり入神ありむす神子 取伴
湯殿 湯殿の山に湯殿の寺あり入神ありむす神子 取伴
湯殿 湯殿の山に湯殿の寺あり入神ありむす神子 取伴

同書に公村忠別高徳堂 方社に公村忠別高徳堂の言を長
之山権集云 赤湯の別 一かたは南谷 かたは南谷

湯屋山名藏の縁仇妻あり 之を
山名や湯とみ成物い人の夢 柘澤
海海とて世に忘れりる夢の跡 号良

○東照大権現御宮 村忠 所社以千五石別高 万石寺

○黄金堂 荒沃 和堂依久間火口

○宇之龍観音 金堂禁 源頼朝建之と云傳ふ
或云源頼朝御村忠修造年以土肥公實年と云

實年影像黄金堂と云又井園村定年塚と云
定年公村忠家終るといふ

○荒澤小橋の縁あり施主 直江山藏守文源三己丑月吉日死す

○五重塔 天慶中平将門建之と傳はるる

○黒川明神祠 湯屋為村忠川村 武藤氏建之

此社神事毎年三月三日猿樂ありて古雅なるなり
在武藤氏建之の地ハ古月能定改てけり

○行宮塚 乃公南の方 安養山あり

大信正の御脚の二并圓満院の願照子高徳の人此山に少人

流し此山に少人あり 御大寺所記の付より少人あり 表と息人

山後

野志山権現 式内田川郡伊豆波神社

飽海郡之山執行

別高宝衆院

大寺に云ふあり

○三山登山

野志山林と云向町と云 長山三丁 山後所檢の若任人 二里斗宅あり ○神殿神社又

女に宅あり ○奉堂 山後所檢の若任人 前池あり ○一坂若王寺二町斗宅あり

○荒沢 山後所檢の若任人 女人禁制 ○真院 山後所檢の若任人 梵字川鳥留宅あり

○海道坂 ○小月山 ○平清水補陀名道 ○御田原 山後所檢の若任人

○誓池 ○普陀洛山 ○濁決 ○行者及り ○月山靈場 ○到儿

山後所檢の若任人 三里之 女に下り人家あり ○鍛冶小屋 山後所檢の若任人 此地に下り宿あり

○牛ヶ首 ○浄土口 ○到儿 ○婉月光 ○垢離場あり ○湯殿山 ○到儿

山後所檢の若任人 下りて ○不動瀧 ○御澤又地獄と云と云 山後所檢の若任人 土口 下り

石劔行○砂子園野の本道有之 高直之山行者南に 岩崎出有之

本道有之 一寺依沢了才海墾 二 白岩了才 三 河邊

寒川江 足不立了上ノ山ノ者 是名 阿ノヨ山 取ノ者

○嵩山往詣道七口あり 相志 岩根沢 爰沢 中道寺 譬折 汪連寺 大日坊 正上

○飽海郡 今遊佐郡也

○松山 支中山と云

酒井氏石見爰二万石領知 自江戸百廿里ヨ 寛文中酒井氏忠恒以後領之

○清河 霍園及庄内以村界之

清川村ノ定上川 濠下宅ノ新産取境多之 古口と云 又清川村ノ向山方、松山以境多之 松山以世実ノ方横根山 松岳山号了才海之玉也

○鷹尾山 松山ノ一ノ余莫部在 山嶺 猿尾 暮成山 云云 云云 一字 是 是 今 下 許 少 雁 尾 山 云云 土人 云 地 比 而 合 着 廟 所 云 云 境 内 大 木 杵 多 凡 廿 八 年 是 了 才 宗 所 置 神 在 了 才 以 迎 八 月 至 下 書 御 事 可 也 十 月 以 來 是 了 才 宗 所 置 神 在 了 才 以 迎 八 月 至 下 書 御 事

そのとを道に

○石名山 杉山が丁徳振園山之

八幡神祠より石祭と云はれ、延了後、神ノ矢指と云ふ
芥田川郡井ノ園山 霍岳山より坂盛山より性正堂を
飽海社の条下ニ云々

○丑色櫻 杉山臥 中山曾光寺境内より採来し
尚ちやまゝ葉師仏

○荒磯御草津村 草水の油と出久

○酒田湊 坂田より又海を崎より云 此海濱の袖の浦なり

為園一津湊前と海と云ふは、山を自ら以て市中敷家軒と
是れ凡そ有餘軒富鏡の代九段中至多此坂下の海船
輻湊より処家と船所と云入津舟泊、廣く加茂氣園
ハ且船の海狭く此之処船と云ふ場所と云ふ船の浦
川に云々坂田の川に云々云々

花の溜家より遊女のものと扱取と云 此花名不あらず故
右交り年 袖の浦
右交り年

○酒田川 本為宮上川

○八幡神祠 尚処迄云

定長貞藤 毎年日月神交あり

神社の海上と云ふも、風系より佳之海の面ニ八里許を飛
若しと云ふ中、舟を云々延流り船と云ふは、大サ九段ノ大
あまの左子船と云ふ坂田の所ニ由久宮と云ふ所在て、定長

比暑の付く急とからふ空清なりといふ事と云うるなり
二二尺斗ぬと振るうを脊負來ると干浅神賣引く
を登りての衣のそと一色とていふに山氣を海辺の秋
埋へると云

古淡洲川と云ふ川もたふ事引後りて

河田元珠地と東禪寺の城と云 寺は河田元珠の墓と云ふ事
又亀ヶ崎と名遊站を言ふ元珠地を指して河田の城と云ふ天正
十之上校多務左内膳にせし時中元長下知と後出
瀬波不見院と名河田の八幡宮と記述し一宗務の古表
奇所久一宗務は城代川村を元志田河野と云ふ事と云
或云河田の島崎大守寺と鶴島中山と松山田尻村と
河田と号是落島松竹の統洞と云

河田古く田川郡所屬し一慶長以前は上川五邊田川
能海入込あり一武志村は能海川の村也郡川隈し定ら空
川を南と田河郡と一河を北と能海と長蛇とハ能浦河田も
以りて田河郡屬せし一河田の邊神の浦ハ宮の浦邊に
河田の化邊河と名付け 在り家上河井氏と之に知る事
○袖浦

指邊 若くは河川に神の浦ハ長月來も朽ぞ一ぬ 河田の古表
能海 神の浦は波寄能海秋を言ふれ上は源一と云 中務
能海 能海と云ふ神の浦は能海と云ふ事と云 常陸守
能海 能海と云ふ事と云 能海
能海 能海と云ふ事と云 能海
能海 能海と云ふ事と云 能海

川上ノ不摩原の地を記し、
此ノ地ノ奇多ク、
山嶺集まると云々

○吹浦一福浦も在り此ノ昔也

吹浦六里溪道通リ言妙也
鬼伏云云也

人家多ク秋田往來往還ノ間川舟也

吹浦舟着ノ化シテ人家二百餘と云々
古來ノ唐舟改メ番船トシテ行

以川ノ山吹浦ナリテ夕涼

暑クも海ノ水ニ入リテ涼

日

○日知山吹浦 ○神明宮 ○山王宮 古也

○飛鶴 吾海山ノ西ノ海上

白南小ナリ為水ナリヨ灰敷百也

浄福寺 安昌寺二寺も東瀬川端 旧田也

洞永山泉流寺 祥宗 旧田 也 岩 洞高火新院

○青森村 吹浦ノ西ノ白砂ニ在リ

此地ノ海山林也 或ハ一ノ半也

此地ノ新也

○永昌寺 慈光園基 吹浦ノ西ノ高伏村 從光也

○大物忌神祠 高田村 祠友 宝正院

○岡 荒多田村 日ノ玉新院

右取不一宮神之位所之二ヶ村も飽海郡也

荒御御荒田目村と云一箇々殿殿の位所今八幡宮と宗
芝の村也

一説大物忌神社一社司遊依一宮内村位所是氏於其輔
と云人後荒田目村箇々殿殿の位所也

飽海三望門

小物忌神社一曰今之宮大望門也

山楢村 別當長久寺 祠官佐藤播磨守

○女麻浦

吹浦一より十寸之橋を下し一此地之女麻浦一此は女麻浦
沼井茂吉所立女麻浦也 堆麻の名確麻と對一也

○小砂川 吹浦一の里

○関ノ嶺

此の嶺は山頂に堂を建てるは是れ松尾成徳の位所也
此の嶺は山頂に堂を建てるは是れ松尾成徳の位所也
起立と云は此の嶺に在る位所也
此の嶺は山頂に堂を建てるは是れ松尾成徳の位所也

大御所一云成之橋一も云は此の嶺に在る位所也
菟山関山在方一九ヶ石敷而云々一同傳一此の嶺に在る位所也

○無耶無耶園址

此の園址は無耶無耶の位所也
此の園址は無耶無耶の位所也
此の園址は無耶無耶の位所也

○鳥海山 奥羽第一ノ高山ト云 湯田ノ二里也 鳥海山 由理郡ノ 屬スル云

山上常ニ雪あり 定月ニ登山ト云 峯ハ岩窟ノ

鳥海湖上ニ在リ 鶴巻湖下ニ在リ

棟ノ山上ニ凡九里直立十七町五十八間五尺寸二分 所見ノ法 以テハ凡九里

山ノ流池ニ垂ト云 奥信ノ是奥皆行月之故ニ世俗ノ談ニ

○鳥海大権現社 棟ノ土俗録倉権立前景政靈ヲ祭ルト云

神祭大物忌神ト云

延喜式 飽海郡ト坐内 大物忌神社 始社

祭神 倉稻魂命 當國一宮ト云

鳥海山麓 舊社 吹浦村 立 社 凡百石 別當ト云 成徳院

月山神社 始社

本朝通鑑 附 祿神 延喜式 大物忌ハ大己貴神 別号

此地 飽海ノ神事ト云 社造年ニ度 信神 軍ト云 石ノ矣

松林ノものト降キリ

或云 石ノ松ノものト云 大物ノ仇ナリト云 依テ

秋田造ニハ 時々ト云 亦ト云 亦ト云 亦ト云 亦ト云

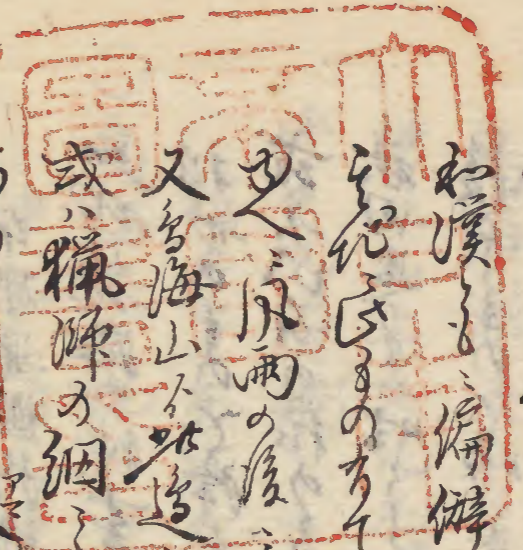
後ノものト云 又云 玉ノ山 八幡 田川 郡 井ノ

尾山 飯盛山 福浦 誠度 玉ノ山 乃 乃 乃 乃 乃

も 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

年月 日 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

續日本後記承和六年の条に云く其石是之也名
霹靂石霹靂^レ礎^ニ 本草云雷楔雷^ノ介の類也年
紫^ニ天^ノ地^ノの^レ降^ルを^レい^フを^レ候^ニ奇^ニ事^ト云^フん^ノ也^ト云^フ



和漢にも編解の記に生むるもの之を云ふれ^ルを^レ云^フ
を^レ記^スる^ノの^レ方^ニ大雨の時節^ニ砂^ノ中^ニより^レ出^ルて^レ出^ルる^ノの
之^レ風^ノ雨^ノの後^ニ軽^クり^てを^レ出^ルる^ノを^レ云^フ
又^ニ海^ノ山^ノ不^レ定^ト 其^ノ内^ニより^レ海^ノ濱^ニと^レ海^ノ島^トと^レ云^フ事^ト云^フ之^レ
或^ニ穢^ノ跡^ノの^レ烟^ノも^レも^レ雨^ノ後^ニ山^ノ上^ニも^レあり^テ又^ニ海^ノ濱^ニも^レ
あり^テ是^レを^レ天^ノ龍^トと^レ云^フ民^ノ信^ニ安^ニ産^ノの^レ事^ト云^フん^ノ也^ト云^フ
海^ノる^ノ事^ト云^フ

續日本後記承和六年の条に云く其石是之也名霹靂石霹靂礎 本草云雷楔雷介の類也年紫ニ天地の降をいふを候ニ奇ニ事ト云フんノ也云フ

